

# 中学校 音楽部会

部会長名 赤村立赤中学校 校長 荒川 正史  
実践者 福智町立方城中学校 教諭 西澤 亜由美

## 1 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育む音楽科学習指導の工夫」  
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して～

## 2 主題設定の理由

- (1) 現行の学習指導要領では、各教科を通して「思考力・判断力・表現力」を育成することが求められており、音楽科においても、生徒が自らの感じ方や考え方を基に表現を創造し、学びを主体的に深めていくことが重要視されている。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現は、単に活動量を増やすだけではなく、子ども同士の対話を大切にし、音や表現を選択する理由や根拠を明確にさせるとともに、その思考のプロセスを重視した授業改善が不可欠である。しかし、実際の授業では、歌唱や器楽などの活動が技能の習得に偏り、生徒が思考を巡らせながら表現を構想したり、友だちの意見を手掛かりに自らの考えを再構築したりする学習機会が十分に確保できていないという課題がある。また、音楽独自の学習過程を生かしつつ、生徒の思考や判断を促すための具体的な指導方法についても整理していかなければならない。

そこで、本研究では、音楽科学習において思考力・判断力・表現力を育むための指導の工夫を明らかにし、生徒が主体的に学びを深められる授業の在り方を検討することを目的とする。特に、共有することを通して多様な感じ方や表現の違いに気付かせ、それらを比較・評価しながら自分の表現に結び付けていくといった、往還的な学習となり得る授業を実践から具体的な手立てを探りたいと考える。

音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の具現化に資する指導の方向性を示し、生徒が音楽を通して自ら学びを創造する力を育成することが重要であるため、田川郡音楽部会として本主題を設定した。

### (2) 生徒の実態から

本校の生徒は、音楽を聴く際に作品の構造や表現意図に着目しながら聴く姿勢が十分に育っていないことが挙げられる。鑑賞における問いに対しても、「きれい」「怖い」「おもしろい」などの表層的な感想が多く、作品のどのような要素がその印象を生み出しているのかを考え、根拠をもって説明する力が十分とはいえない。このことは、学習指導要領が求める「思考力・判断力・表現力等の育成」に課題があることを示している。特に、中学3年生の音楽科学習においては、旋律・リズム・音色・構成など複数の視点を組み合わせ、音楽的事象を総合的に捉えることが期待される。

しかし、音楽の変化に注目しながら聴き、意味を考察したり、感じ取ったことを自分の言葉で説明したりすることに不慣れなため、音楽を主体的に感受する力が、十分に育っていない。

このような状況を踏まえ、情景描写が明確で、主題の展開・楽器の役割・場面の構成が理解しやすいスメタナ作曲「ブルタバ（モルダウ）」を扱うことは生徒の思考を促しながら鑑賞に取り組みさせる上で有効である。また、同曲は川の源流からプラハに至るまでの情景を音楽的に描写しており、生徒自身が「なぜそう聴こえるのか」「どの音楽を形づくる要素が情景を作っているのか」を考えやすい教材である。さらに、自身が捉えた情景や音楽的根拠を言語化し、他者と交流する過程を設けることで、音楽を自ら価値つけて表現する力の育成が可能となると考える。このことは、現在求められている資質・能力を育成する上で大変意義深いと考える。

### 3 主題の意味

#### (1) 思考力・判断力・表現力を高める音楽科学習指導

曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする力である。

#### (2) 音楽科における「主体的・対話的で深い学び」

主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養うものである。

### 4 研究の目標

本研究は、音楽を形づくる要素に着目して聴く学習を通し、生徒が音楽の特徴を根拠をもって捉え、考えを形成し、表現する力を育成する指導方法の在り方を明らかにすることを目的とする。これを達成するために、実践の中で、思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫を検討する。

### 5 研究仮説

音楽を形づくる要素に着目させながら「ブルタバ」を鑑賞する学習を構成し、感じ取ったことの根拠を明確にして言語化・交流させる指導を行えば、生徒は音楽の学びに主体的に関与し、他者との対話の中で思考を深化させ、思考力・判断力・表現力を高めることができるだろう。

### 6 研究の計画（授業の計画）

#### (1) 題材名 音楽が描く物語ーブルタバから学ぶ表現ー

教材名 「ブルタバ（モルダウ）」（連作交響詩「我が祖国」から）  
スメタナ作曲

(2) 題材の目標及び指導計画

単元	鑑賞「ブルタバ」	総 時 数	3 時間	時 期	6 月
単元の 目標	<p>○ 「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解し、味わって聴く。 (知識及び技能)</p> <p>○ 「ブルタバ」の音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質を感受しながら、曲の雰囲気と音楽の要素や構造との関わりについて考えるとともに、スメタナの「ブルタバ」に込めた祖国への思いを曲想の変化のつながりと最終動機に向かう構成との関連から考えている。 (思考力、判断力、表現力等)</p> <p>○ 標題音楽としての「ブルタバ」の音楽の特徴やその背景となる文化や歴史との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 (学びに向かう力、人間性等)</p>				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点 (援助・支援)	
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2曲を通して聴き、イメージしたことを言葉やイラストで表現する。</li> <li>標題音楽と交響詩作曲者について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲を聴いてイメージしたことをイメージマップに表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「我が祖国」の6曲と第2曲の7つの標題を提示する。</li> </ul>	
2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>標題ごとに音楽を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことと音楽を形づくっている要素とを組み合わせ、作曲者の工夫を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を聴き標題と結び付ける。</li> <li>結び付けた理由を音楽を形づくる要素を使って表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何度も聴き確認することができるように音源とイヤホンを準備しておく。</li> <li>音楽を形づくっている要素をいつでも確認できるように一覧を準備する。また、それに付随する表現用語一覧も用意する。</li> </ul>	
3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>チェコの歴史や文化について知る。</li> <li>これまでに知覚・感受したことをもとに紹介スライドを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までで知覚感受したことを使ってスライドを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より伝わりやすい紹介文には「なにが、どのように、どうなのか」という根拠を明確にした書き方の工夫を意識させる。</li> </ul>	

(3) 展開

	学習活動・内容	指導上の手立て・配慮事項・評価	形態	配時
導入	1 音楽の要素について確認する。 (帯活動)	○ 音楽を形づくっている要素を全員で復唱して確認する。	全体	3
	2 前時でのイメージを持って、ブルタバにはそれぞれの標題がつけられていることを知り、本時のめあてを設定する。	○ 前時にイメージしたものを提示し、「なぜ、このようなイメージが浮かんだのだろうか」と問い、めあての設定につなげる。		3
<b>めあて</b> 音楽とイメージとの関係を考えて聴こう！				
展開	3 各標題を A～G に割り当て、標題名と画像とを結びつけ、流れを考える。	○ 標題毎の音源を学習支援ソフトで送っておき、何度でも聴けるようにしておく。	個人	7
	 〈興味や関心を高める〉 川をどうやって表現しているのか気になるからもっと聴いてみよう			
	4 グループで交流し、音楽を形づくっている要素と関連させながら、理由をつける。	○ 音楽を形づくっている要素と音楽との関わりに考えを持たせるために、(旋律、強弱、音色など)と表現に使える用語の一覧を送っておき随時確認できるようにする。	グループ	7
	 〈知識技能を活用する〉 編成・楽器の数に注目して聴くと、フルート、クラリネット、弦楽合奏と演奏者の数が増え、編成が大きくなっているので川が大きくなっていくように感じる。			
5 全体で交流し、その結果をグループに持ち帰り、再思考する。	■ 音楽を形づくっている要素を使って表現することができる。 【知】学習支援ソフト	全体	10	
6 正解を発表し、自分たちの考えと比較する。	○ 他のグループの意見によって変更しても良いことを確認する。  ○ 自分たちの感じたことと作曲者の工夫とを比較し、イメージと要素との関わりを確認する。 (ここでは、合致しなくても問題ないことを押さえておく)		10	

終 末	<p>7 めあてに立ち返り、本時の学習をまとめ、自分の学びを振り返る。</p> <p>① 音楽を聴いて思い浮かぶものがあるのはなぜだろう？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>考えそうな意見</b> 音楽を形づくっている要素を変化させ、思いや意図をもって作曲者が表現しようとしているから。</p> </div> <p>② 学習についての振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【期待する振り返り】</b> ・要素との結びつきに注目することで、よりイメージがつけやすくなった。 ・次回の紹介スライド作成において今まで分かったことを踏まえて分かりやすく紹介したい。</p> </div>	<p>○ 考えた意見を互いに確認できるように、学習支援ソフトを使って共有する。</p> <p>★「作曲者の工夫」に気付き、言葉で説明することができる。 <b>【思・判・表】</b></p>	個人	5
				5

## 7 研究のまとめ

本研究では、学習の過程において意図的に手立てを講じることで、生徒の思考力・判断力・表現力の向上に一定の成果がみられた。以下にその具体的な指導の工夫を示す。

- 帯活動で要素を確認することで、要素を意識して鑑賞させる。
- イメージマップを共有することで、それぞれの感じ方を確認させる。
- 作曲された時代背景を知ることで、作曲者の意図を確認させる。
- グループ交流の際に、表現用語一覧表を準備し、よりの確に言葉での表現に活かす。
- グループや全体での交流を行い、友だちの考えと自分の考えを比べさせ、新たな考えを知ることで、自分の考えを深化させる。

## 8 成果と今後の課題

- 表現用語一覧があることで、自身の考えを的確に表現することができた。
- 提出されたシートを共有することで、自分のシートの改善に役立てることができた。
- 感受したことと知覚したことを関連付けることで、根拠をもって評価することを多くの生徒が意識できるようになった。
- スムーズに取り掛かれる生徒とできない生徒との差ができる場面があり、手順等を示しながら取り組みへと向かう必要があると感じた。
- 生徒に選択する場面をもっと設定するなど、より自主的な活動へとつながる手立てを考える必要がある。

### ◎ 参考文献

- ・ 文部科学省 「中学校指導要領解説 音楽編」平成29年7月